

「後悔しても命戻らない」

大津 いじめ撲滅に講演や討論

いじめをなくす活動に取り組む保護者らの団体「いじめから子供を守ろう！ネットワーク」（本部・東京都）が20日、大津市のピア

ザ淡海で講演会とパネル討論を開いた。2001年に、顔見知りだった少年2人に暴行されて死亡した大津市の青木悠さん（当時16歳）の母、和代さん（63）が討論に参加。「後悔しても命は戻らない。親は子どもの変化に気づき、守ってあげてほしい」と、子育て中の親や教育関係者ら約30人に呼びかけた。

悠さんは少年2人に殴られるなどし、急性硬膜下血腫で亡くなった。和代さんは「親より早く子が亡くなるつらさは言い尽くせない

い。いじめによる自殺を防ぐためにも、あらゆる場で命の大切さを訴えたい」と切々と語った。

講演会では、同ネットの井沢一明代表（54）が、子どもや保護者が学校に相談しても「いじめはない」などと切り返される例が多いとし、▽子に録音機を持たせる▽文書で改善を要望——などの対策を提案。「責任逃れをする学校は多い。いじめを許さない校風にするよう、今後も学校現場に求めていく」とした。

同ネットは、メール（odomom@mamoro.org）や電話（03・5719・2170）で相談に応じたり、全国で講演会を開いたりしている。